

リポート
Report

大磯町郷土資料館だより
2002・11・30

23

もくじ

- | | |
|-------------------|---|
| ◇西小磯の七夕行事が国選択に | 2 |
| ◇大磯町における今夏のウミガメ情報 | 4 |
| ◇写真で見る大磯の移り変わり④ | 5 |
| ◇トピックス | 6 |
| ◇資料受入／行事案内 | 8 |



西小磯の七夕行事が国選択に

大磯町西小磯地区で行なわれている七夕行事が、平成14年2月12日付で、「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に国選択されました。

七夕は、一般的には中国の牽牛織女の伝説に由来する星祭りとして認識されていますが、西小磯の七夕は、盆を迎える前にケガレを祓ったり、降雨を祈り豊作を願う農耕儀礼的な性格を持つことが特徴です。

今回の国選択は、日本の七夕行事や民間信仰の要素を理解する上で貴重なことや地域的特色が豊かであることが認められたもので、西小磯東七夕保存会と西小磯西子ども育成会の2団体によって行なわれている七夕行事が対象です。今後は、国や県からの補助を視野に入れながら、映像などの記録作成の作業に取り組んでいきたいと思えます。

ここでは、本年8月に行なわれたそれぞれの七夕行事を取材しましたので、その様子を紹介します。

〔西小磯西地区（子ども育成会）〕

本来は8月6日・7日に行なっていましたが、近年は従来の期日に近い土・日曜日に設定されています。本年は8月3日（土）・4日（日）に行われました。もともと、各小集落ごとの「子供連」という組ごとに行なわれていた行事ですが、現在は子ども会行事となっています。今年は幼稚園の年少から小学校6年生までの子どもを中心に、40人ほどが参加しました。

8月3日、朝8時30分、子どもたちが竹飾りを手に、宿（やど）に集合しました。昔は「子供連」ごとに最年長者の家が宿をつとめました。現在は西小磯西老人憩いの家となっています。まず、2つのコースに分かれ、竹飾りを担いで地区内の道祖神や神社を巡りました。続いて、5つの地区に分かれ、オカメやヒョットコの面をつけて地区内の各家を訪ね、軒先で太鼓に合わせて七夕踊りを行ないました。各家では、子どもたちの踊りの見返りとしていくらかの施しを与え、これが七夕行事の賄い費の足しとなります。しかし、炎天下のなか2時間余りをかけて1軒1軒回るのはいへんです。そんな過酷な行事が続いてきたのは、おそらく子供たちの踊りが家々の厄を祓い幸をもたらすという役割を負っていたからだろうと思えます。そして、地域の人々もそのことを知っていたのでしょう。

さて、宿にもどると、持参したオニギリと、役員が用意した惣菜で昼食をとります。午後は、地区の有志を指導者に迎え、小学生高学年と役員がそれぞれ竹神輿を作りました。なかなか力と根気のいる作業で、3時間ほどをかけて2基の竹神輿が完成。そして、2つの

コース（低学年・高学年）に分かれて地区内を練り歩きました。特に高学年は、切通しの身代わり地蔵まで行き、お札をもらってきます。宿に戻ってきたのは夜の7時半。夏の空もとっぴりと暮れていました。

翌早朝、小磯幼稚園下の海岸まで竹神輿が担がれ、さまざまな厄を背負い込んだ竹神輿を海に流します。昔から、鷹取山や大山が見えるところまでは沖に泳ぎ出て流してくると言われているそうです。今年は波が穏やかで、潮の流れもそれほど速くなかったことから、勇気ある小学生の参加もありました。また、地域の方が救命用ボートで伴走したこともあって、人も竹神輿も豆粒のように見えるほどの沖まで泳ぎ出しました。

〔西小磯東地区（七夕保存会）〕

従来どおり、8月6日・7日の期日で実施しました。もともと西小磯東地区では、地区内がさらに東西に分かれて「子供連」があり、それぞれ別々に行事を行なっていました。しかし、近年の少子化により、昨年からは竹飾りや竹神輿で地区内を巡る際は、一緒に行なうようになっています。今年は、宿（西小磯東老人憩いの家）も行事もすべて東西が合同で実施しました。

6日の昼過ぎ、竹飾りを持って子どもたちが宿に集まりました。東西合同なので人数も多く、なかなか賑やかです。竹飾りを担いで、唱え言をしながら地区内の道祖神、水神、神社、辻などを巡りました。宿でのおやつを挟んで2回巡り終えると、宿や保存会の方々にOBの中学生を加え、竹神輿を作りました。そして、宿で夕食。提灯の火が映える頃、竹神輿を担いで地区内を巡ります。低学年が提灯で先導し、高学年が竹神輿を担ぎます。特定の場所では、唱え言をしながら激しく上下に揺らします。地区内の厄をすべて竹神輿が吸いとってくれるかのようなしぐさでした。翌早朝は、西小磯東老人憩いの家下の海岸まで竹神輿を担ぎおろし、沖まで泳ぎ出て流しました。西小磯西地区と全体的な行事内容に大差はありませんが、西小磯東地区には七夕踊りがないなど、若干の違いが見受けられます。

さて、両地区ともに、昔は子どもたちだけで行事を執行していたとのことですが、近年はだいぶ様変わりをしているようです。しかし、今年を見る限りでは、竹神輿づくりはもちろん、海へ流す際も高学年を中心に子どもたちが加わっているほか、中学生や高校生の、いわばOBの手伝いが見られたことは心強い限りでした。また、役員や宿の方々のご尽力も忘れてはなりません。今年は、国選択となって新聞などで紹介されたこともあり、町内外からの見学者が目立ったようです。今後も、この素朴な行事をいつまでも伝えていってほしいと思えます。

西小磯西地区



七夕踊り

西小磯東地区



竹飾りでのお祓い



竹神輿づくり



宿での休憩



竹神輿の巡行



竹神輿でのお祓い

大磯町における今夏のウミガメ情報

今年の夏、大磯では例年になくウミガメに関する情報が目立ちました。特に西小磯の海岸でアカウミガメの産卵が確認されたことは、大きなニュースとなりました。海岸の環境を保全するため、平成8年に大磯町海岸自動車等乗入れ禁止条例が施行されて以後、初めての産卵確認です。

<アカウミガメの産卵・孵化>

8月24日、松永一治氏（西小磯在住）が、友人から海岸にウミガメの足跡があるとの情報を受けて現地でも産卵を確認したという連絡をいただきました。大磯では平成2年にアカウミガメの産卵・孵化が確認されていますので、今回は記録上12年ぶりになります。

当館では、取り急ぎ現地へ赴き、暫定的な措置として産卵場所に保護柵を設置しました。次いで江ノ島水族館から今後の対処方法についてアドバイスをいただくことにしました。それによると、産卵したのはおそらくアカウミガメで、今夏は相模湾で他にも産卵の情報があることや、通常は6～7月が産卵時期であることが多いため、かなり遅い産卵であることなどが分かりました。砂中の温度が25℃を下回ると孵化は難しくなるという心配もありましたが、結局、自然にまかせてそのまま見守る方針に落ち着きました。

ところが、台風の接近によって状況は一変します。27日朝、台風の大波が産卵場所に迫っているとの連絡を受けて現地を確認した結果、少なくとも次の満潮時には極めて危険な状態になると判断しました。そこで、再び江ノ島水族館に相談したところ、保護していただけるとのこと。しかも、台風の接近を危惧して、その日のうちに作業していただけることになりました。

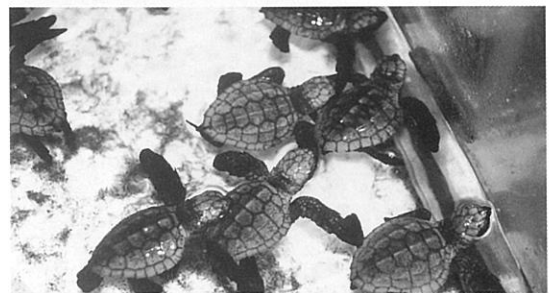
午後、江ノ島水族館から3名が駆け付けてくださり、採卵作業をおこないました。卵の上下が逆転しないように一つづつマーキングしながらポリバケツにとりあげ、1時間余りの作業で深さ28cmから50cmまでの砂中から、合計136個の卵を保護しました。今後は江ノ島水族館で保護観察していただけるとのこと、ようやくほっと一息つくことができました。しかし、炎天下での作業、重いポリバケツの運搬など、たいへんな作業でした。迅速に対処していただいた江ノ島水族館のご厚意に感謝申し上げます。なお、翌日、館職員が産卵跡地を確認に行くと、波に洗われた跡がありました。まさに危機一髪でした。

昔から大磯では、カメはシケ（時化）の多い年には砂浜の高いところに産卵すると伝えられています。し

かし、今年は早い時期から台風に見舞われたにもかかわらず、産卵場所は砂丘上の草むらから約16mも下で、大波に洗われるような場所でした。カメも久しぶりの大磯での産卵で感覚が鈍ったのかも知れません。

さて、江ノ島水族館のご厚意によって保護された卵は順調に成育し、10月11日から孵化が始まりました。10月20日までに56匹が生まれました。来春、海水温が上がってから放流される予定です。

ところで、今年はアカウミガメの産卵が相次いでいるようです。江ノ島大橋下では79個（8月7日）、片瀬海岸西浜では37個（9月10日）の卵が保護されましたが、いずれも無精卵のために孵化しなかったそうです。大磯でも、西小磯の産卵より少し前（8月中旬）に、国府本郷の海岸でウミガメの足跡を目撃した方がいたようですが、残念ながら産卵場所の確認はできていません。しかし、今夏は確実に多くのカメの気配が感じられました。アカウミガメの産卵が毎年の恒例になることを期待したいと思います。



（江ノ島水族館提供）

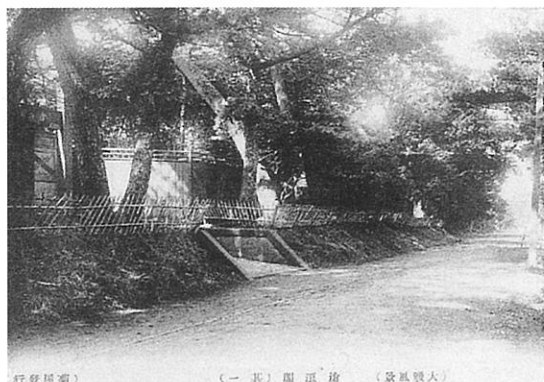
<アカウミガメの子ガメが漂着>

9月1日、西小磯の海岸のナモト（波元）で発見されたカメの死体が当館に届けられました。全長7.7cm、直甲長（甲羅の長さ）5cm、直甲幅（甲羅の幅）4.7cmのアカウミガメの子どもでした。大磯付近で孵化した可能性もあります。海にたどり着いたものの残念ながら力尽きてしまったのでしょうか。現在、冷凍保存しており、来年度には剥製の予算化をする予定です。

<オサガメが漂着>

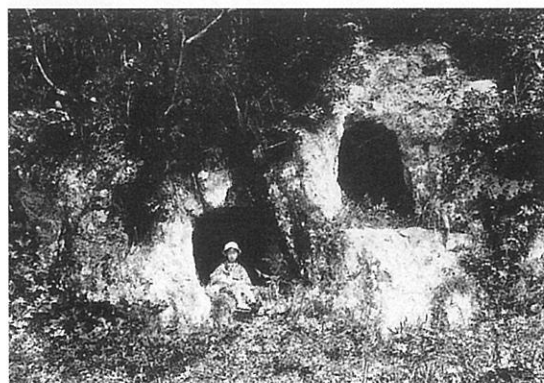
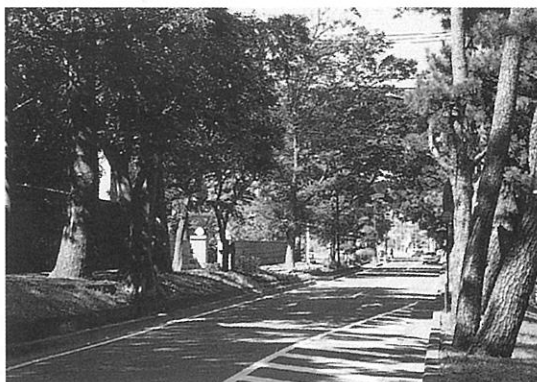
9月3日、西小磯の海岸にウミガメの漂着死体があるとの情報が届きました。傷みが激しく頭部も一部が欠損していましたが、甲羅の特徴からオサガメではないかと判断されました。オサガメは熱帯から亜熱帯にすみ、ウミガメのなかでも最大級に成長するようです。漂着したオサガメは、直甲長101cm、直甲幅56cmで、甲羅から推測する全長は150cm程度と考えられます。骨格標本化もしくは甲羅の資料化を目指して、砂浜に埋めるなどの処理をしました。

写真で見る大磯の移り変わり④



東海道の松並木 (左：明治後期、右：平成14年)

旧東海道の面影が残る東小磯から西小磯の滄浪閣前にかけての松並木。昭和11年の国道拡幅工事で、現在の上り車線が開鑿されている。



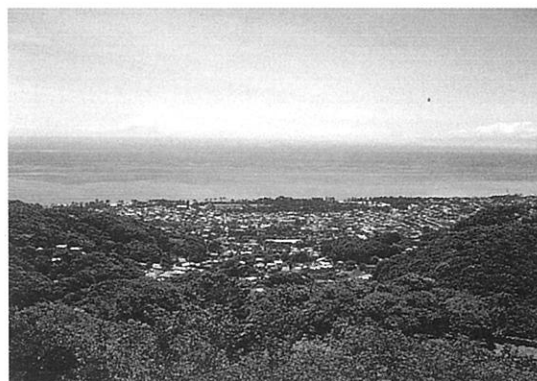
東小磯の古墳 (左：明治後期～大正初期、右：平成14年)

古い絵のはがきには「千畳敷宝山の古穴」と記されている。現在の善兵衛池横穴墓群のことを指しているものと思われる。



東小磯と西小磯の遠望 (左：明治後期～大正初期、右：平成14年)

左は東小磯の中尾から西小磯の集落を遠望した写真。谷戸に満々と水をたたえた水田が望まれる。右は現在の湘南平展望台からの遠望。



(資料提供：飯田福信氏)

【トピックス】

◇東海道シンポジウム大磯宿大会記念展

「旧高麗寺の寺宝」

昨年の東海道宿駅制度400年記念展に続き、今年度は第15回東海道シンポジウム大磯宿大会記念展を、10月12日(土)から11月17日(日)まで開催しました。昨年は大磯宿・平塚宿・二宮の間の宿をテーマに展示しましたが、今回は視点を変えて、大磯宿から分離独立した高麗寺村の領主である高麗寺を取り上げました。既に本年5月、「文化財特別公開」として、新たに確認された神像群と修理を完工した仁王像を紹介していますが、今回の展示では、さらに資料を補完し「旧高麗寺の寺宝」と銘打って、今後の高麗寺研究の基礎資料を提示したものです。そして、神像群や仏像群で展示を構成し、近世以前の神仏習合の宗教的空間を体感していただくことを目指しました。期間中、5,351人の入館者がありました。



◇海の教室「大磯御船祭り見学会」

平成12年度から継続している「海の教室」では、さまざまな視点から海を考えることを主旨として活動を進めています。本年度最初の海の教室は、7月21日(日)に地元大磯の御船祭りの見学会をおこないました。いわゆる「船祭り」の見学会は、昨年の貴船祭り(真鶴)に続いて2回目の企画となりました。当日は、27名の参加をいただき、図書館で概説ビデオを視聴して現地見学へ出かけました。美しく飾りつけられたマツリブネ(船山車)や木遣唄などを見聞し、しばし海の文化に酔いました。

◇文化財めぐり

当館では従来の館業務に加え、平成11年度から文化財行政業務が組み込まれました。以来、当館では文化財保護継承への理解を得るために、文化財めぐりを継続して開催しています。本年度は、楊谷寺谷戸横穴墓群や釜口古墳を巡るコースで、文化財強調月間にあわせて11月3日(祝)に開催しました。

◇高麗山自然観察会

11月2日(土)、高麗山で自然観察会を開催しました。これは、平成11年度から継続的におこなっている「草と木の調査」(年度ごとの年間会員制)の公開講座として開催したものです。講師には高橋秀男氏(神奈川県立生命の星・地球博物館名誉館員)にお願いし、樹木の見分け方を中心に進めました。そして、アラカシ・シラカシ・ウラジロガシ・コナラ・スダジイ・ドングリの他、メタセコイヤ・モクゲンジなどの外来の樹木を観察しました。当日は秋晴れの中、27名の参加がありました。



◇一部展示替え

このほど、常設展示室の小コーナーの展示替えを実施しました。これは、例年実施している博物館実習生による実技実習の一環としておこなったものです。

本年度は4大学5名の実習生により、企画から展示、リーフレット作成まで、すべて自らの手で完成させました。テーマは「海からの来訪者—大磯のアカウミガメ」で、本年9月に大磯町西小磯海岸で産卵したアカウミガメを紹介しながら、アカウミガメの生態や環境問題に取り組んだものです。テーマ設定から展示構成、解説文やリーフレットづくりまで、その過程にはさまざまな試行錯誤がありました。ささやかな展示コーナーですが、実習生たちの熱意もあわせてご覧いただければ幸いです。



◇書籍案内

- ・『二宮町の今と昔の写真』／平成13年8月刊
- ・『大磯町の今と昔の写真(高麗地区・東町地区)』／平成14年2月刊
- ・『大磯町の今と昔の写真(化粧坂・王城山・湘南平)』／平成14年6月刊
- ・『大磯町の今と昔の写真(大磯地区・東小磯地区・外)』／平成14年11月刊

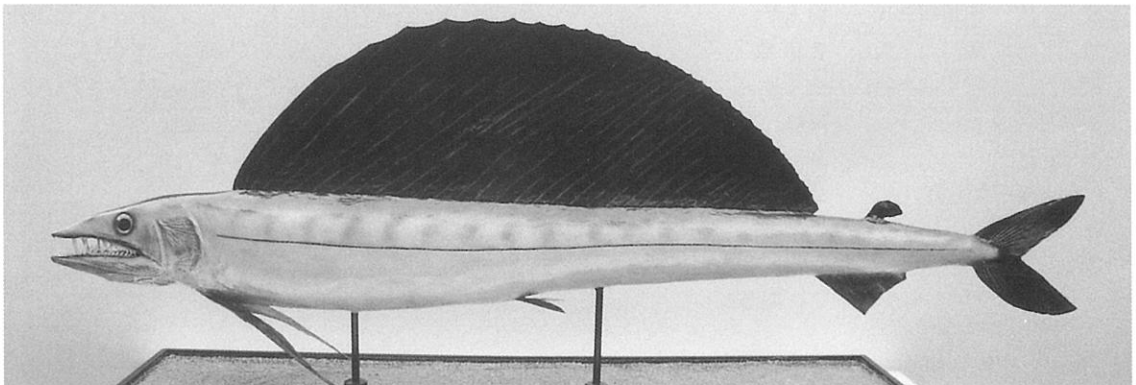
本誌の「写真で見る大磯の移り変わり」に写真や情報を提供していただいている飯田福信氏(北下町在住)が、4冊の写真集を刊行されました。同氏は、絵はがきや写真に造詣をお持ちで、かねてから当館のさまざまな企画ご協力をいただいています。写真集は、本文12~14頁ほどの分量で、自らパソコンを駆使しての力作です。あくまでも、後世への記録や参考資料としての利用を念頭においた非売品ですが、当館や図書館で閲覧することができます。

このように、地元生まれ育った方が、自らの記憶や経験を生かして地域の歴史をひもといていかれることは、とてもすばらしいことだと思います。

◇ミズウオの剥製

平成14年4月16日早朝、伊藤貞夫氏(平塚市在住)が大磯海岸でミズウオを拾得し当館に寄贈されました。ミズウオは水深1,000m付近に棲息し、成体では300cm近くまでになるという深海魚です。今回寄贈されたミズウオは、体長134cm、体重6kgと、いわば“中型”でしたが、鋭い歯と体に不釣り合いなほど大きな背鰭(せびれ)を持った長く異様な姿態は、海の神秘さを物語るには十分なものでした。その後の調査によると、煮ると身が水のように溶けてしまうのでミズウオと呼んでいるとのことで、大磯では過去にも稀にあがることもあったようです。しかし、これほどまでに状態が良いことは珍しく、急速剥製化を検討することにしました。幸い、剥製化とともに予算措置も可能となり、早速剥製業者に引き取っていただきました。特徴ある身肉と薄い皮膚のため、剥製化は難しかったようですが、9月に無事納品されました。現在、エントランスホールにて展示公開中です。

ところで、剥製化の作業途中で、ミズウオの胃から20匹ものハリセンボンが出てきました。ちょうど、今年の2月から4月頃にかけて、相模湾岸では大量のハリセンボンが漂着しています。ハリセンボンを追いかけて浜に上がってしまったのか……あるいは悪食がたたって絶命したのか……ミズウオとハリセンボンをめぐる想像は広がります。



- ・『高来神社蔵木造神像群』(大磯町文化財調査報告書第45集)／平成14年3月刊

平成12年に実施した高来神社所蔵の木造神像群の調査報告書です。これまで未調査だった神像群についての、法量をはじめとした基本データや、調査時撮影写真などをまとめています。調査によって、本像は、質・量ともに充実した、鎌倉期にさかのぼる神像群であることが確認されています。A4版39頁。有償頒布(1000円)。

- ・『大磯町郷土資料館収蔵資料目録 絵はがき I』(資料館資料6)／平成14年3月刊

当館収蔵資料のうち、絵はがきを目録化したものです。明治18年の海水浴場開設とともに保養地や別荘地として栄えてきた大磯では、案内書や絵はがきが数多く刊行されてきました。このような地域的特性を考慮して、当館では開館以来、絵はがきや古写真の収集に務めてきました。今回は、大磯(661点)および神奈川県内のほか、東京都を除く関東地方までの目録を掲載しています。A4版58頁。有償頒布(500円)。

【資料の受入】

(寄 贈) ご協力ありがとうございました。

高 麗	庚申講中	庚申講中道具
大 磯	木村純子氏	アシナガバチの巢 他
大 磯	飯田福信氏	貝標本 他
大 磯	尾崎芳治氏	写真パネル 他
大 磯	加藤嘉義氏	鳶職道具 他
東 小 磯	新見紀雄氏	クジラの歯
国府本郷	加藤登思枝氏	衣服
石 神 台	西山縫子氏	長襦袢
石 神 台	矢島繁男氏	石器
二 宮 町	西山敏夫氏	漁具 他
二 宮 町	日下正武氏	写真 他
平 塚 市	滝山昭枝氏	人形 他
平 塚 市	伊藤貞夫氏	海綿
秦 野 市	尾沢千枝子氏	袷の着物
西東京市	杉谷一子氏	古文書

(移 管)

大磯町役場経済観光課	イタゴ
大磯町役場下水道課	赤レンガ
大磯町役場総務課	地質調査報告書
月京幼稚園	8mm撮影機

(寄 託)

黒 岩	坂井保治氏	高札
大 磯	宮代治吉氏	稲荷講資料
大 磯	菊池なつみ氏	文学関係資料
東 小 磯	大磯中学校	吉田茂杯 他
国府本郷	添田光雄氏	看板
国府新宿	山川 正氏	書籍
月 京	後藤 勲氏	古文書
黒 岩	守屋町子氏	古文書 他
西 小 磯	中村晴夫氏	稲荷講資料
西 小 磯	戸塚 浩氏	稲荷講資料
平 塚 市	加藤文八氏	書 (断片)
平 塚 市	二宮勝男氏	書幅
横 浜 市	田川順三氏	雛人形
横 浜 市	飯島成三氏	書籍 他
新 宿 区	近藤敬一郎氏	古文書
南本町区		随神、屏風
裡 道 区		獅子頭
西小磯西子ども会		会旗、七夕資料
西小磯東区		掛軸 他
西小磯東・西区		伊藤博文資料

〈寄託期間：～H16.3.31〉

【表紙写真】

西小磯の七夕

地区内を巡り、さまざまなケガレを背負い込んだ竹神輿は、最後に海へ流される。鷹取山や大山が見えるところまで泳ぎ出て流すが、かつて子どもたちはこの行事で泳ぎを習得したという。

【行事案内】

みなさんの参加をお待ちしています。詳しくは町広報をご覧ください。館へ直接お問い合わせ下さい。

▼企画展

・ミニ展示『収蔵昆虫標本展』
平成14年12月8日(日)～平成15年1月26日(日)
当館所蔵の昆虫標本約1,000点を展示いたします。町内でよく確認される種類、近年の確認事例などを紹介します。

・『雛人形展』

平成15年2月16日(日)～4月6日(日)
当館に収蔵されている、明治時代から昭和時代にかけての雛人形を一堂に公開します。

▼海の教室

・『環境を考える～ケナフで紙漉き～』
今回はケナフを使った紙漉き体験を通して、身近な環境を考えます。今回は申し込み制となります。

日時／平成15年1月25日(土) 午後1時30分～3時30分
場所／郷土資料館研修室
定員／25名 (申込多数の場合は抽選)
申込／平成15年1月10日必着で往復はがきにて受付
参加費／無料

・「ビーチコーミング」

照ヶ崎と北浜海岸で漂着物を拾います。雨天決行。申し込みは不用です。当日現地へお集まりください。
日時／平成15年3月8日(土) 午前9時30分～11時30分
集合／照ヶ崎プール前に午前9時30分集合

Report - 大磯町郷土資料館だより - No.23

平成14年11月30日

編集発行 大磯町郷土資料館

〒255-0005 神奈川県大磯町西小磯446-1

TEL 0463 (61) 4 7 0 0

FAX 0463 (61) 4 6 6 0